



NPO法人 災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

災害救助犬・認定審査規定

2015年10月改訂

NPO 法人 災害救助犬ネットワーク
認定審査部

服従作業で合格点 70 点以上に達しない場合は、搜索作業に進めません。
作業終了後に出陳者には講評します。
服従、障害、BOX 審査に合格した場合は認定 R(リザーブ・防災訓練・広報デモ参加可) となります。

1、服従作業

脚側停座させ審査員にゼッケン番号、犬名、指導手名を申告する。
各地点での各作業は、すべて審査員及びスチュワードの指示で行ってください。

脚側行進

審査員及びスチュワードの指示(以下「指示により」もしくは「指示で」と表記する)により「常歩」・「速歩」・「緩歩」・「右折」・「左折」・「回れ右」・「回れ左」を行い、指示により指導手が停止したら犬に脚側停座を命じ指示により終わる。
紐付きで出発点(A)に行き、脚側停座させる。出発点(A) (C)を常歩で進み(C) (E)を速歩で進む。(E)で脚側停座を命じた後、指示で紐を外し、その後の作業は紐無しで行なう。
指示で(E) (F)を常歩で進み(F)地点で回れ右をした後、指示で緩歩にて進む。(I)地点より常歩で進み約5m進んだ(G)地点で指示により脚側停座させる。指示により(G)地点より常歩で進み(H)地点で回れ左をした後(I)地点に進み(I) (K)を速歩で進み回れ右をして脚側停座させて終わる。
尚、スタート時及び歩度変更とターンの際は声視符を与えなければならない。但し、乱用や誘導的な態度は、その程度に応じて審査されます。回れ左の場合は、指導手と犬の動きは同じ方向に回らない反転ターンでもよしとします。(F) (H)の区間と(I) (K)の区間でジョギングする人とのすれ違いがあります。
各地点では、すべて審査員及びスチュワードの指示があるまでは次の作業に移らない。

脚側行進中の作業(紐なし作業)

指示により出発点(A)から常歩で脚側行進し、約5m進んだ地点で指示により、一声視符で犬に伏臥を命じ止まることなく直進し(B)地点まで進み犬と向かい合う。指示により犬の元へもどり指示により脚側停座させる。
指示により常歩で脚側行進し、(B)地点を左折し約5m進んだ地点で指示により、一声視符で犬に停座を命じ止まることなく直進し(C)地点まで進み犬と向かい合う。指示により犬の元へもどり指示により脚側停座させる。
指示により常歩で脚側行進し、(C)地点を右折し約5m進んだ地点で指示により、一声視符で犬に立止を命じ止まることなく直進し(D)地点まで進み犬と向かい合う。指示により犬の元へもどり指示により脚側停座させる。
指示により、常歩で脚側行進し、(D)地点で指示により脚側停座させて終わる。
各地点では、すべて審査員及びスチュワードの指示があるまでは次の作業に移らない。

遠隔作業

指示により、指導手は紐無しで(E)地点に移動し犬を脚側停座させる。
指示により、指導手は犬を伏臥させた後、指示により「待て」を命じ、常歩で10m離れた(B)地点まで進み犬と対面する。指示により、指導手は一声視符で犬を立止させ、指示により一声視符で犬を停座させ、指示により一声視符で犬を伏臥させる。指示により、指導手は常歩で犬の元に戻り指示により脚側停座させて終わる。
各地点では、すべて審査員及びスチュワードの指示があるまでは次の作業に移らない。



NPO法人 災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

招呼

指示により、指導手は紐無しで(J)地点に移動し犬を脚側停座させる。
指示により、指導手は犬に「待て」を命じ、常歩で15m離れた(K)地点まで進み犬と対面する。
指示により、指導手は犬を招呼する。犬は、直接脚側停座するか、又は指導手の直前に一旦対面停座してから脚側停座させて終わる。
各地点では、すべて審査員及びスチュワードの指示があるまでは次の作業に移らない。

幅跳び

幅跳び台の前で脚側停座させる。指示により踏み台から指導手とともにAの幅跳び台に上り脚側停座させる。指示により指導手は、犬をB台へ跳び越させ、犬が跳び越えた後に「待て」を命じB台上で待たせる。指示により指導手はB台の下まで行き、指示により跳び越えた犬をB台から降りし脚側停座させて終わる。
飛び越し幅は、大型犬 110cm、中型犬 80cm、小型犬 50cm。



休止

指示により指定された場所に紐付きにて移動し脚側停座させる。指示により指導手は犬に休止姿勢をとらせて指示された繫留フックに犬を繫留する。指導手は、指示により指定された犬から見えない場所で休止終了の指示があるまで待つ。休止終了後、指示により犬のもとに戻り脚側停座させて終わる。
休止場所は、服従コースの(F)地点と(B)地点を結んだ中間点とする。グループ先頭番号の犬が作業中は、グループ最後の犬が休止し、先頭の作業終了後からは作業終了順に休止とする。

作業の順序、並びに課目の変更は審査員の指示に従ってください。声符、指符とも認めます。
作業中、他の犬や人に対して危害を加えた場合、またはそのような動作が認められた場合、以降すべての作業を中止とします。(すべて作業時にも適用します)
服従作業で合格点がなければ搜索作業には進めません。

2、障害物通過作業(紐無し作業・声指符あり)(a)～(d)

指示により障害物の手前で犬を脚側停座させる。指示により指定された障害物を通過させ、作業終了後は必ず脚側停座で終わらせる。各地点では、すべて審査員及びスチュワードの指示があるまでは次の作業に移らない。(障害物通過の作業順は審査員が指示します。)



(a)シーソ歩行通過
急がずにゆっくりとバランスをとりながら、確実に通過させること。

(b)不安定地通過
障害物上の中央で犬を一旦立止させる。
ブルーシートに異物が入っている。
上記の上記に波板が乗っている。

(c)はしごを含む高所通過
はしごを登って、高所を通過後、傾斜した板上を通過して降りる。
指導手の指示のもとでゆっくりと確実に。

(d)トンネル通過
直径約60cmの蛇腹トンネルを通過させ出口を出れば待たせ指導手が出口へ行って停座させる。

障害物は写真と異なることもあります。



NPO法人 災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

3、搜索作業

雑木林・山野・家屋倒壊・瓦礫想定現場での搜索作業 ヘルパー数名・搜索時間10分間

搜索現場は、審査会前日に審査員が決定し説明会で発表する。

- 1、進行係の指示により、指導手は出発点に行き、犬を脚側停座させ、審査員にゼッケン番号、犬名、指導手名、告知方法を申告し、犬の紐、首輪を取り外し、審査員の指示により作業を開始する。
- 2、褒美の為のボールやおやつ等の使用は認めるが、現場での処理には留意する。なお、褒美を使用する方は、審査前に必ず審査員に申告する。
- 3、搜索作業は、指導手が審査員にトランシーバーにて作業開始一報を入れた時点から時間をカウントする。
- 4、立入禁止区域には指導手は入ることはできない。
- 5、搜索作業の残り時間及び作業終了の指示は、進行係よりトランシーバーにて伝える。
- 6、犬が発見告知(原則として咆哮)したと判断したら、指導手は手を挙げ、トランシーバーにて審査員に「発見」を知らせる。確認に入るか、犬を呼び戻すかは、審査員の指示に従う。

4、デモ用BOX搜索作業

3つのBOXの1つにヘルパーが隠れます。紐付きでBOXを搜索させて確実に発見咆哮させて下さい。

認定犬となれば、デモに参加協力してもらい機会が増え、見学者に囲まれた中で、状況によっては紐付きでの作業になることもあります。そうした現場にも対応できるような服従の錬度、作業意識が必要となってきます。

5、ランナウエイ搜索作業

ヘルパーにご褒美を渡し、名前を呼びながら隠れますが、隠れる場所は見ないようにして搜索させ、発見咆哮させて下さい。

認定犬となれば、防災訓練に参加してもらい機会が増え、救助隊に囲まれた中で、模擬行方不明者の搜索作業になることもあります。そうした現場にも対応できるような搜索の錬度、作業意識が必要となってきます。

搜索中、作業意識低下やコントロール不可と審査員が判断した場合、時間内でも審査を中止します。告知動作において、指導手による誘導や搜索作業での咆哮ではないと審査員が判断した場合、発見、咆哮の有無にかかわらず減点、若しくは無効とします。(説明が必要か否かは審査員の判断になります)

服従・搜索ともに審査要項の説明は、前日夕方から行い質問を受け付けますが、審査当日は出陳者には説明しませんので、申告後は審査員の指示に従って速やかに作業をはじめてください。

その他、いずれの審査会場でもすべて審査員の指示に従って下さい。

シーズン犬は受付時に申告して下さい。各課目の通常審査がすべて終了次第、順次行います。



NPO法人 災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

評価について

【服従作業】

認定犬に求められる基本的な服従性、作業意識、作業意欲、集中力、持続性、確実性、体力等を、指導手に求められる指示のタイミング、コントロール力、犬との一体性等を審査する。
一声視符で行われることが基本であるが、必要に応じた声視符は認める。また必要以上の声視符と判断された動作については、最小単位の減点対象とする。
点数で争う競技会とは異なり、求められる最低必要限の作業を確実にを行うことを審査ポイントとする。
各審査課目で70%以上(合計70点以上)を獲得しなければならない。

【障害作業】

認定犬に求められる基本的な服従性、作業意識、作業意欲、集中力、持続性、確実性、体力等を、指導手に求められる指示のタイミング、コントロール力、犬との一体性等を審査する。
指導手の指示に従って、自主的に作業することが基本であるが、必要に応じての補助も認めることもある。
スピードを求めているのではなく、指示に従って安全、確実に作業することが第一である。
各審査課目で70%以上(合計70点以上)を獲得しなければならない。

【搜索作業】

認定犬に求められる基本的な服従性、作業意識、作業意欲、集中力、持続性、確実性、体力、搜索範囲、特定告知等を、指導手に求められる指示のタイミング、コントロール力、犬との一体性、犬の観察と判断力、現場の状況判断力等を審査する。
指導手の搜索指示に基づき、自主的に作業することが基本であり、必要以上の指示は誘導と判断する。
偶然による発見より、意図した犬との作業、搜索の経過を重視して審査する。
各審査課目で70%以上(合計70点以上)を獲得しなければならない。

【BOX 搜索作業】

イベント、デモで行うBOX 搜索は多くの観衆、雑踏の中で災害救助犬の特性をアピールする場であり、確実性ととも指導手の臨機応変な状況判断、コントロール力が求められる。
その視点に加え、服従、搜索作業と同様に審査する。
ここでの審査は点数ではなく単なる可否で行う。

以上、いずれの作業評価において得点100点のうち、各課目で70%以上(合計70点以上)を獲得できなかった場合は「認定」とはなりません。

BOX、障害作業は点数評価ではなく可否評価です。

なお服従作業で70%獲得できなかった場合は搜索審査に進めません。

各作業が終了後に審査員が講評を口頭で受験者に伝えます。

以上

以下 P5～P8 服従コース図

予め定められたコースや作業を順番に行うのではなく、スチュワートの指示に従って作業を行う規定への切り替えに伴い、戸惑いが起こらないように。2015年度はコース図を示しますが2016年度からは、臨機応変に対応できる服従性を確認するためにコース図は事前に公表しませんのでご注意ください。